

事例の区分

事業区分	建築物整備事業
配慮概要	省エネルギーおよび快適環境の保全・創造等に配慮した建築物整備

事業の概要

事業名	津幡警察署庁舎建設工事（建築）
実施場所	河北郡津幡町字加賀爪地内
事業主体	石川県（担当課：会計課）
実施期間	平成14年10月～平成15年12月
全体事業費	約1,300,000千円
事業規模等	鉄筋コンクリート造 3階建て 延べ面積3,305.29㎡、他に車庫等
事業概要	老朽化・狭隘化した旧津幡警察署の建替事業として、新庁舎は、鉄筋コンクリート造、3階建て、延べ面積3,305.29㎡とし、施設の拡充とともに、バリアフリー化、省エネ化、耐震化、景観への配慮等を行い、落ち着いた色彩の外壁と大きなガラス窓を設置し、「開かれた警察」をイメージして建設した。

環境配慮の内容

- 1 熱線反射ガラス等による空調負荷の軽減（建築工事）
南側正面にある大きな窓全面に熱線反射ガラスを採用、また、屋根、外壁、土間には断熱材を入れ、省エネ化を図った。
- 2 快適環境の保全・創造（建築工事）
敷地周辺は、学校、事務所、住宅などの中低層の建物が混在した地域であり、旧庁舎と同じ3階建てに抑え、外壁も落ち着いた色彩とし、周辺環境との調和を図った。また、建物高さを低くすることで、電波障害の発生も少なく抑えている。
- 3 省エネルギー型照明器具の採用による省エネ化（設備工事）
40w以上の器具は全て高効率のHf蛍光ランプを採用した。
- 4 深夜電力を利用した空調設備方式による省エネ化（設備工事）
深夜の安価な余剰電力を利用して地下蓄熱槽に冷温水を溜め、日中の冷暖房の熱源に利用するもので、日中の電力ピークを抑えて省エネ化を図った。

環境配慮の結果

省エネ化や景観配慮により、環境負荷及び維持管理費を抑えつつ、開放的で落ち着いた建物を創出することができた。

今後の留意事項等

建て替えに際しては、警察機能を第一優先としつつ、環境にも配慮し、より省エネルギーで、かつ、地域に優しく、住民に安心感を感じてもらえる建物とするよう努力したい。



津幡警察署正面（南側）

- 1 正面の大きな窓（カーテンウォール）に、熱線反射ガラスを採用。屋根、外壁、土間には断熱材を入れて省エネ化。
- 2 階数を3階に抑え、外観を茶系色のタイルで落ち着いたものとし、隣接地への圧迫感を抑え、まちなみ景観に配慮。開放的な大きなガラス窓により「開かれた警察」をイメージ。
- 3 建物内部の照明は、Hfインバータ方式の蛍光ランプを採用。
- 4 地下蓄熱槽を設置し、深夜電力による水蓄熱方式による空調設備を採用。